

よんでネット*

秋号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「ひかり舞う」 中川なをみ スカイエマ [絵]

明智光秀の家臣だった平史郎の父は、本能寺の変で討死にした。4歳の妹サキは病死、母とも別れ8歳の平史郎は雑賀の鉄砲衆タツについて行く。男の仕事には向かず、手先の器用な平史郎は針仕事を習い、独り立ちの道へ。絵描きの岡二、キリシタンの武将小西行長、朝鮮出兵の折、連れてこられた少女おたあ。運命的な出会いをしながら平史郎は秀吉、家康の時代を生き抜く。



ポプラ社
〔913 ナ〕



「かならずお返事書くからね」



ケイトリン・アリフィレンカ マーティン・ギャンダ
[編] リズ・ウェルチ [訳] 大満千鶴子

PHP研究所
〔936 ア〕

1997年 アメリカに住む 12歳の少女 ケイトリンは、授業の課題で、文通を始めた。相手はジンバブエに住む少年 マーティン。地球の半周 向こうにいる相手に、ワクワクしながら手紙を送りあう二人。しかし、次第にマーティンからの手紙が届かなくなる。政情不安と混乱、その上経済危機で、切手すら買えないのだ。生きる環境の違う二人。ケイトリンは助けになることをしたい一心で、手紙に20ドル札を入れたのだが…。これは 本当にあったおはなしです。



幻冬舎
〔589 コ〕

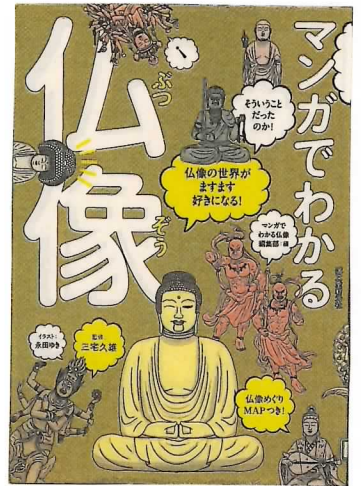
「虹色のチョーク 働く幸せを実現した町工場の奇跡」

小松成美

日本でいちばん大切にしたい会社とテレビでも紹介された日本理化学工業株式会社は、日本のチョークの50%を作っている。主力商品はガラスの上でもきれいに描ける虹色のチョーク・キットパス。その製造リーダーは、社長に「うちのE-ス」といわれ頼りにされている自閉症の本田さん。作業員のほとんどが知的障がい者で、その半数近くが重度の障がいを持っているが、みな働くことに幸せを感じている。

「仏像の世界がますます好きになる！ マンガでわかる仏像」

監修：三宅久雄 イラスト：永田ゆき
マンガでわかる仏像編集部：編



誠文堂新光社
〔18 マ〕

国宝、重要文化財と聞くと堅苦しいイメージの仏像。でも、イケメン、アフロ、美女がモデルと聞くと会ってみたいなりませんか？漢字ばかりの長い名前も、様々な姿をしているワケも、この本の分かりやすい解説で納得です。



講談社
〔913.6 サ〕

「典獄と934人のメロス」

坂本敏夫

大正12年、9月1日、未曾有の大震災が関東を襲った。甚大な被害を受けた横浜刑務所では、典獄(刑務所長)の権名が24時間の期限つきで千人余の受刑者たちの一時開放を決断する。受刑者の福田達也も故郷に戻るが、あまりの惨状に被災者の救助を手伝うことを決める。期限までに戻れない兄のかわりに妹のサキは焼け跡と、かれきの山の中を走って、横浜刑務所を目指した。